

# 大原草紙

第78号  
令和4年1月  
新春号

## 私の大原ベストポジション



来迎院町

佐々木(旧姓和田) 春美



### 向いの山々の連なり、 前を流れる高野川

小さい頃より見慣れた景色が古里に戻って来た事を実感させてくれます。中・高生の頃この景色を友と眺めつつお喋り。草生の彼女は若うして亡くなりました。思い出すのは日頃彼女にイケズする男子に腹がたちお転婆やった私、中学の頃馬乗りになって大ゲンカ。そやけど同級生はエエもんです。家が学校のすぐ近くで、小・中学は井出や戸寺、小出石の級友が道草の武勇伝。羨ましかった！夏休みには近くの和田橋で近所の遊び仲間と毎日川遊び。学校にプールも無うて他に遊びもない時代でした。高校入学後「大原の山猿」と言われ悔しい思いもしたけど、今や大原は全国区！ほんまに嬉しい、誇らしい！又「アンタ何ゆうてんのアホちゃうか!」こんなくだけた？大原弁が使えるのも私には、心地エエ。

おねがい。人々の触れ合いやこの自然の姿が続いて欲しい。大方の各町内で地区計画を練り上げ、大原への移住者が増えますように。これまでお世話になったり、大原を支えてくれてはる仰山の方々オオキニ!!私も大原の役に立てたらエエナアと思えます。

# 謹賀新年

京都大原里づくり協会



- 顧問 土井 孝雄
- 顧問 和田野光彦
- 理事長 西田 誠
- 副理事長 上田 壽一
- 常務理事 高倉 哲法
- 理事 榎並 博一
- 理事 久保 満
- 理事 多紀 穎忍
- 理事 藤井 宏全
- 理事 安田 真
- 監事 久保 勝
- 監事 中林 義夫
- サポーター 竹腰 幸司
- サポーター 高田潤一朗
- サポーター 安倍百合子

## 新年のご挨拶

理事長 西田誠



新型コロナウイルスと共に過ぎ去るを得ない二度目の正月を迎えました。姿の见えないモノを相手に感染対策は抑制された生活ですが、今年もどうか宜しくお願致します。

かく申しながら当会は新年早々に存続の判断を迫られております。創立20年を迎え会員の高齢化とリーダーを育てて来なかった会の現実からです。

怪物23年。高校野球、プロ野球、さらにアメリカ大リーグで活躍した松坂大輔さんが昨秋引退しました。彼の引退に際しての言葉「23年の選手生活の半分以上は故障との戦いで批判されることが多かったが、自分の諦めの悪さをほめてやりたい」と。

偉大な選手に習って、私も終止符を打つことは最後のこと。大原地区の伝統文化と活字文化を継承。何よりも人と人のきずなを大切に。諦めるためにこの会を続けたい。諦めの悪さで存続のため進みます。

先ずは大原学院生と共に「国蝶オムラサキ」の保存のための環境づくり、広葉樹の植栽を広げる事です。皆さまのご賛同を期待します。

## 京都大原学院の歴史資料

上田 壽一



西林院

京都大原学院に残されている資料を見せてもらう機会がありました。

### (一) 『大原名勝地誌』

明治36年、大原尋常小学校の三沢栄先生が教育に活かそうと書かれたもので、実際に何年か住まれた方なので、花笠踊りの記述等は大変参考になりました。

「花笠踊りは毎年ではなく、豊作等の時、十数年に一度行われています。七、九歳の子供達が花笠を付け、美しく着飾って踊ります」(意訳)

### (二) 『大原紀勝』

大正の頃、「平安通史」の編者湯本文彦氏によって書かれたものです。此の本を中辻村長(戸寺)が大原として所蔵したいと府会議員津吉敬太郎氏(野村)と相談し、尋常小学校の久保季先生(小出石)に依頼し書き写したものです。此の本は次の「大

原村誌」の基礎となっています。

### (三) 『御大典記念大原村誌』

昭和四・五年に御大典記念に編集されたもので、昭和五十年各戸に配付された「大原百年史」の基礎となっています。村祭りの日が十月初申から十月二十三日から五月十日さらに五月十五日と変化した事も記されています。

これらの資料は京都府文化博物館や、京都市学校歴史博物館も注目されており、今後の研究につながってゆくと考えられます。

## 無料で譲ります

問合せは編集部・西田まで

☎090・4649・0633

### オムロン製 体重体組成計 KaradaScan HBF-900

体重・体脂肪率・内臓脂肪を測ることができます。置き物で一度も使っていません。新品。

### トヨタミ製 石油ファン ヒーター NLC-32E2

石油臭で狭い脱衣場には不向き。あまり使ってません。新品同様。

国蝶・オオムラサキの  
保護活動が  
文部科学大臣賞を受賞



昨年、秋も深まった11月24日、環境省等が主催する第55回全国野生生物保護活動発表大会において、京都大原学院の長年にわたるオオムラサキの保護活動の取組みが高く評価され、文部科学大臣賞を受賞しました。

当日は、大原学院の令和3年度大原提言発表会（11月5日実施・本紙5頁参照）で「オオムラサキをブッシュしよう！」を発表した9年生が環境省でも学院生の活動を発表しました。改めてこの取組の歴史を訪ねました。

▼平成17年（2005年）当時5年生の生徒が路上でオオムラサキの羽の破片を拾う。

▼調査開始、同年越冬幼虫を発見

▼18年クヌギの樹液に飛来した成虫を発見「大原での生息数は少ない、

保護活動の計画、大原土地改良区等の「大原里づくりトライアングル」が支援事業開始

▼農水省から「モデル地区」の指定。一方小学校では全校生がクヌギのドングリの種まきと水やり、飼育網室完成、当時中学生がエノキを採取して網室に植樹、大原周辺で越冬幼虫を探し網室へ。京都市「私たちと地球環境」に掲載、毎年市内全校に配付

▼平成19年オオムラサキを屋外へ還す「放蝶会」を開始。

▼平成22年「観察ノート」用意。学院生90名によるクヌギの植樹。順調に成長。

▼平成25年累代飼育（網室の中で何世代にもわたって繁殖・飼育が出来る）に成功、1年を通じて観察できる。

▼平成27年樹液にオオムラサキが飛来を確認。

「大原提言」の提案

●オオムラサキを通じて大原の環境を考える！

●オオムラサキにとって住みやすい場所に！

●大原の活性化につながる！

○オオムラサキの特徴

○タテハチョウ科

○国蝶

○日本各地、東アジアに生息

○クヌギなどの落葉広葉樹の樹液

○エノキの落ち葉の中で越冬

◎準絶滅危惧種

大原地域の  
出来事  
大原自治連合会主催  
第1回『近年大原に移住  
された方々との交流会』

11月27日（土）野村町の「健幸の郷」を会場に、近年移住された方々との交流会があると言うので傍聴に参加しました。

会場にはお馴染みの方、初対面の方と自治連役員や地元町内関係者など総勢60名余りか。オオ、「ぴーちくぱーちく」の臨時出張所も出ています。

20数名の発言のほとんどが、大原に期待を持って住いを選んだ結果は期待通りであった。ただ住いを取得するために、時間がかかった。手続きが大変だった。価格が高い。等々、今後の移住希望の方々のために改善が必要だとの要望が出ていました。

また、子育ての環境として期待したが正反対の結果を招いていると聞いていてうなずけることもありました。引き続きこの種の会合と移住者促進の取組みが期待されます。



大原女GO!!  
(おおはらめ号)  
が大原⇄京都駅を走る



■100周年を迎えた京都バスが、この冬「大原女」のラッピングバスの特急運行をしました。

ラッピングに用いられた大原女の絵を制作したのは、大原にゆかりのある切り絵アーティスト・望月めぐみさん。

【運行日（予定）】  
◇2021年12月11日  
◇2022年1月16日間の  
土曜、日・休日

◇2021年12月29日  
◇2022年1月3日間の毎日

◇2022年2月11日  
◇13日間の毎日

■大原周遊シャトルバス  
【運賃】無料

【運行区間】大原バス停→寂光院道→里の駅大原→大原バス停（約11分）

■大原⇄貴船周遊シャトルバス  
【運賃】無料

詳細については京都バス(株)にお尋ねください。

## 2年ぶりのマラソン大会



新型コロナウイルスの感染の小康状態となった10月28日、京都大原学院の恒例「全校マラソン大会」が小春日和の中開催された。運動会文化祭が2年連続中止。この日久しぶりに生徒たちの元気な姿を見ようとコースになる野村・草生町の道路、農道にはスタート前から保護者、地域の人達で賑わい、生徒たちの力走に声援を送っていました。野村町のHさん「昨日だと思いきや来たが始まらない。コロナで中止かとガッカリだったが、今日元気な走る姿を見て応援することも出来た」久しぶりの学校行事の喜びを話された。

## ■ソフトテニス部

9年生が夏で引退し、現在は8年生4名、7年生3名で活動しています。3面の立派なコートをつるフル活用することは稀ですが、大人数校に負けない緊張感のある充実した活動を心がけています。コロナの影響で公式戦としての秋季大会は中止になりましたが、ソフトテニス連盟主催の大会が10月下旬より順次開催されました。

### 【市内大会の結果】

男子団体戦  
予選リーグ  
2勝0敗

決勝トーナメント  
1回戦敗退

(ベスト8)

男子個人戦

7年生ペア  
1勝1敗

8年生ペア  
4勝1敗

準優勝↓府大会出場

女子個人戦

7・8年生ペア  
3勝2敗

### 【府下大会の結果】

男子個人戦

8年生ペア  
2回戦敗退



## ■バドミントン部



現在、7年生3人の部員で日々の練習を頑張っています。外部コーチとして八木さん・飛田さんにも教わりながら技術も向上しています。

2021年夏季大会には、9年生の部員2名が予選を勝ち抜いて全市大会に出場することができました。最後の大会で自分たちの

## ■文化部

文化部は、月、火、水、金曜日に活動しています。文化的な取り組みなら、校内の施設で活動が可能なのであれば、部員と相談して取り組んでいます。



月、火曜日は音楽的な活動で、主に「ギター演奏」に取り組んでいます。大原学院にあるアコースティック・ギターを使って、いろんな曲をコードで演奏しています。曲ごとに新たなギターコードを学び、難しいコードがあるときは、悪戦苦闘しながら、がんばって

力を最大限に発揮してくれたことと思います。夏季大会を経験した7年生にとって2回目の公式戦となる秋季大会（新人戦）は残念ながらコロナウイルスのため中止となりました。そのような状況であっても部員は来年度の春季大会での勝利を目指し日々の練習に取り組んでいます。来年度の入部状況にも寄りますが、部員が5人以上となれば2年ぶりとなる団体戦に出場することができそうです。秋季大会で力を発揮できなかった悔しさを持ちつつ、来年度の春季大会ではさらに高いレベルのプレーができるよう頑張っていきたいです。

マスターし、演奏しています。曲のレパートリーがどんどん増えていくのが楽しみです。

水曜日は美術的な活動です。有名な絵画作品の模写に取り組んだり、版画に挑戦したりしています。昨年度は美術展にも応募する予定でしたが、コロナの影響で参加を見送りましたが、今後はまた機会があれば、美術展に作品を応募したいです。

金曜日は家庭科的な活動です。小さなマスコット人形を縫って作ったりしています。こちらもコロナの縛りがなくなったら、お菓子作りなどにも挑戦してみたいです。

このように文化部は小さな部ですが、いろんな文化的活動に取り組んでいます。

## 恒例の大原提言発表会から

9年生が9年間の学びの集大成として、大原地域の将来について考え、学院生、保護者、地域の皆さまに向けて「大原提言」。7月の一次報告会で聴いた人達の意見をもとにさらに内容を深め完成させたものです。(学院ホームページの要旨)

京都大原学院9年生恒例の「大原提言」発表会は11月5日実施されました。

### 令和3年度「大原提言」発表要旨

#### 1 大原でオンラインツアーを!!

大原でオンラインツアーを行うことで、多くの人に大原の魅力を知ってもらい、もっと大原について関心をもってもらえたり、「実際に行きたいな」と思ってもらえたりと思います。そのことが大原を活性化することにつながると考えます。

#### 2 大原に移動式オープンカフェを

移動式オープンカフェは、私たち住民にとって大原の新たなスペースで、もっと自分たちの地域を満喫でき、新たな大原の一面が見つけれ

ると思います。大原に来てくださった観光客の方々には、寺院以外の大原の魅力にも関心を持ってくださる良い機会になると思います。

#### 3 大原の野菜を手作り市に

大原のおいしい野菜を、大原を紹介したパンフレットと一緒に、自分たちから売りに行くことで、大原をアピールし、知名度を上げることができると思います。その結果、大原に来てくれる人が増える、知っていた人でも行ってみよう!となるのではないかと考えます。

#### 4 大原にイメージキャラクターをつくらう!

イメージキャラクターは制作者の工夫次第で様々な活性化に繋がる可能性を与えてくれます。大原にイメージキャラクターを作ると、大原の活性化に繋がる活動が増え、後に大原の良さを知ってもらえると思います。

#### 5 パンフレットで大原の生きものを守ろう

大原にいる生きものを、文字だけでなくイラストに表すことで、より簡単に知ってもらえると思います。「大原生きもの集」を通して生きものに関心を持ってもらうことが、大原の生きものたちを守るきっかけに

なるのではないのでしょうか。

#### 6 大原にハイキングコースをつくらう

大原にハイキングコースをつくらうなら、誰でも手軽に登山を楽しめるようになります。そうすると、大原の住民が身体的にも精神的にも健康になる。大原の自然に触れることで大原の魅力を再確認できる。コロナの心配がなく、お金のかからない趣味ができるなど、大原の住民の生活が豊かになると思います。

#### 7 アートであつと言わせよう

大原の自然を作品にして広める活動は、大原に新たな魅力をつくるわけではなく、潜在的な大原の魅力をたくさんの人に知ってもらえると思います。今回制作した「しおり」と同じ花を見つけて自分の故郷を見つめなおす学院生や、2、3年後にふと「しおり」をみて大原に戻ってくる観光客がきっといるはずですよ。

#### 8 オオムラサキをプッシュしよう!

大原はオオムラサキという印象を持ってもらうために、発表大会に参加して発信したり、イベントを主催したりすることを考えました。大原にオオムラサキがいることだけでなく、保護活動についても広めることで、オオムラサキにとって住みや

すく、知ってもらえる、そんな里作りができるのではないかと提言します。

#### 9 大原でソロキャンプ!!

大原でソロキャンプをする場所を提案することで、大原を訪れる人が増えると思います。訪れる人が増えることで大原について知ってもらえることができ、大原が少しでも活気づいたら良いと思いました。

#### 10 送粉者の聖域を創造しよう

大原で送粉者を保護することを提言します。送粉者が増えると植物が増え、草食動物の昆虫類、草食動物が増え、肉食動物が増えます。花などの植物が増え、様々な動物が増え、里山のような町作りができ、より一層四季を感じられるようになり、今よりもさらに観光客が増えると思います。





れんさいマンガ  
\* 77 \*  
アズマツネオ



## 第4回 京都大原里づくり協会賞

戸寺町・井出町  
登校班見守り隊  
のみなさん



私たちの身近な所で「大原の里づくり」をされている方々の活動を感じ、ご紹介する「京都大原里づくり協会賞」令和3年度は井出町山崎信夫さん(90) 吉田輝夫さん(77) 高谷三千雄さん(74)。

山崎さんは約20年「見守り隊を作りたい」とPTAの役員さんから相談を受けて以来「吉田さん高谷さんは「孫の入学を機会に」それぞれ10年超。今年の戸寺、井出町小学生は11名、大原の西側道路を野村町の見守り隊と合流する所で教頭先生にバトンタッチする日々。所要時間は最も長い生徒で25分ほどか。遥かむかし、

私が小学生の時、マラソンに強い人が多かった、往復の通学が生徒たちを鍛えていたのだろうか。

### 通学路は安全か

生徒たちの登校安全に深く関っておられる3人さんに聞きました。

両町の通学路では元井出橋から江文バイパス分岐点まで歩道がない。戸寺町は元井出橋から宮川橋まで堤防を通る。井出町は町内の里道を通り宮川橋へ、交通事故防止の地元ならではの知恵が働いています。気になるのは宮川橋から分岐点までの歩道のない所の交通安全と、田圃に水が入る時期に道路に水があふれ出ることがあること。また、江文バイパス分岐点の横断歩道。通勤に急ぐ車が多いことです。

こんな日々の見守り隊の楽しみに生徒たちの明るいおしゃべり、賑やかな時間。一方、高齢になったので応援の見守り隊員が何名か欲しいと聞いておられます。

2022 次回参加者募集中!

# 1/30 (日)

①11:00~ 親子レッスン  
②13:00~ キッズレッスン

大原記念病院 健幸の郷  
2F コミュニティスペース

# OHARA DANCE LESSON

10/31 第一回レッスン行いました!

小さな子から、大人もみんな先生と一緒に楽しくダンスレッスンできました! 次回、1/30(日)に行います。お申し込みお待ちしております! 経験問いません、お気軽にご参加ください。

お問合せ・申込み  
akari@akaridesign.jp / 080-4664-4365 (山本)

**① 親子レッスン**

対象: 未就学児~小学生低学年のこども+大人  
定員: 4組 (全8名)  
料金: 2,500円/組

**② キッズレッスン**

対象: 6歳~12歳程度のこども  
定員: 8名  
料金: 未就学児 1,000円 / 小学生 1,500円

### 表紙の横顔

《編集部から》

近年チヨクチヨク見かける幼馴染や、顔見知りのUターンさん。結婚や就職を機会に大原を長く離れていた方々の「大原のベスト・ポジション」を写真と手記で振り返って頂きました。

### 佐々木春美さんのプロフィール

生家は学校のすぐ近く元和田酒店。高校卒業後、大原を離れ福祉系の大学へ。学びを生かし、野洲市の福祉施設に就職。結婚10年後、ご主人の父親の出身地松江市で子育て生活。ここは京都と似た町、和服を着てリサイクル着物を商い、町おこしのボランティアと行動派で40年が経過。

実弟の急逝と特養施設に入所する94歳のお母さん支え、生家と先祖さんを守りながら旧友、新友との語らいが楽しみの昨今。